



平成24年9月5日

救急医療週間の実施について

— 9月9日は「救急の日」 —

救急医療週間は、救急医療と救急業務に対する都民の皆様の正しい理解と認識を深め、救急医療関係者の意識を高めることを目的に、毎年9月9日を含む日曜日から土曜日までの1週間に行っています。

本年も、9月9日（日）の「救急の日」や、9月9日（日）から9月15日（土）までの「救急医療週間」を中心に、東京版救急受診ガイド及び東京消防庁救急相談センターの周知を端緒として救急業務への理解を高め、更に、応急手当技能の普及並びに応急手当の実施に対する意識の高揚を図るために、平成24年度東京消防庁救急セミナー（開催地：杉並区）をはじめとする行事を実施いたします。

1 救急医療週間

平成24年9月9日（日）から9月15日（土）まで

2 推進事項

東京消防庁では、広く都民に対して「東京版救急受診ガイド及び東京消防庁救急相談センターの周知及び利用促進」とともに、「応急手当技能を身につけ、応急手当をおこなうことの重要性」、「救急車の適正利用」を呼びかけていきます。

(1) 東京版救急受診ガイド及び東京消防庁救急相談センターの周知及び利用促進

東京消防庁救急相談センター（以下「救急相談センター」という。）は、本年6月1日で開設5年目を迎えました。この間、約135万4,000件の電話を受け付け、約108万件の医療機関案内（※1）と約24万8,000件の救急相談（※2）を行い、急な病気やけがで判断に迷う都民に安心を提供するとともに、救急搬送された傷病者の中で軽症の割合が低下するなど、救急車の適正利用にも成果をあげています。（別紙1-1から1-3）

このことから、本年作成した東京版救急受診ガイド（以下「救急受診ガイド」という。）及び救急相談センターを更に周知し、より一層の利用促進を図るため、あらゆる機会を通じた広報活動を集中的かつ強力に推進していきます。

なお、平成23年中の救急相談センターの受付状況等については、別紙2-1から2-3、救急医療週間前後の主な救急相談センター広報行事予定は別紙3-1のとおりです。

用語の解説

※1 医療機関案内・・・各医療機関からの最新の診察情報をもとに、最寄りの診察可能な医療機関を案内しています。

※2 救急相談・・・相談者の症状により、救急相談看護師が救急相談医師の助言を受けて、医療機関受診の必要性の有無や必要により救急車での受診をすすめるなどしています。

(2) 応急手当の普及啓発の推進

本年1月の講習制度の改正により、救命入門コース（以下「入門コース」という。）が導入されました。これは、時間的制約や年齢から従来の講習を受けられなかった都民及び小学校高学年を対象に、応急手当の裾野を広げることを目的とした、胸骨圧迫（心臓マッサージ）及びAEDの取扱いを中心とした90分の講習です。

当庁では、入門コースを主とした救急セミナーを実施するほか、各消防署において応急手当の講習会やイベントが開催され、広く都民に対し応急手当を積極的に実施できるよう普及、啓発します。

また、バイスタンダーの応急手当の実施状況とその効果について別紙4-1から4-4に示します。

ア 別紙4-1の解説

平成23年中の全心停止傷病者搬送人員は12,851人でした。そのうち市民目撃のあった件数は5,041件で、発生場所別応急手当の実施状況は、別紙4-1のとおりです。

公衆の出入りする場所での応急手当の実施状況を見ると、駅では168人の心停止傷病者が発生し、そのうち109名が目撃され66名（60.6%）の人に対して応急手当が実施されています。また、運動場や体育館では46人の心停止傷病者が発生していますが、目撃される率も高く31名が目撃され27名（87.1%）の人に対して応急手当が行われています。

一方、搬送人員の72%を占める住宅では、9,251名の心停止傷病者が発生していますが、目撃は3,243名で、そのうち826名（25.5%）に対して応急手当が行われています。住宅での実施率については昨年と大きな変化はなく、一般道路よりも低くなっており、住宅は決して安全な場所とは言えない状況が続いています。応急手当の実施率向上が望まれるところです。

イ 別紙4-2の解説

都民等が心停止の発症を目撃した傷病者は5,041人で、バイスタンダーによる応急手当（心停止傷病者に対して有効な手当＝人工呼吸・胸骨圧迫・AED等による除細動処置に限定）の実施状況は、図1、表1のとおりです。

都民等により心肺蘇生法等の応急手当が行われていたのは1,818人（36.1%）でした。このうち救急隊が医療機関に傷病者を収容するまでに呼吸又は脈が回復した傷病者は421人（23.2%）で、応急手当が行われていなかった場合と比較すると、12ポイント高い結果になっています。

また、心停止の目撃があった場合は応急手当の実施の有無により、1ヶ月生存率に約2.7倍の差が生じています。

ウ 別紙4-3の解説

平成23年中の都民等のAEDによる除細動実施人数は202人で、その内1

23人（60.9%）が病院到着前に呼吸や脈拍の回復がありました。過去3年と比較すると、都民による除細動実施件数とともに、呼吸、脈拍の回復する傷病者数の増加が認められます。また、前イのバイスタンダーにより応急手当が行われた場合の回復率と比較し、約3倍の高い効果が認められています。

エ 別紙4-4の解説

心停止した傷病者を救命するためには、「心停止の予防」「早い発見と通報」「早い心肺蘇生と除細動」「2次救命処置」の4つが連続して行われることが必要です。この4つのうちどれか一つでも途切れてしまえば、救命効果は低下します。

右側の救命曲線は、心肺停止における「経過時間」と「命が助かる可能性」を示したものです。時間の経過で救命のチャンスは低下しますが、応急手当により救命のチャンスを高めることができます。

平成23年中の東京消防庁管轄区域内の救急出場件数は、724,436件で、44秒に1回の割合で出場しています。また、救急車が現場に到着するまでに、平均で7分10秒かかっています。一人の尊い命を救うためには、バイスタンダーによる早い通報、早い心肺蘇生、早い除細動、救急隊や消防隊、医療機関で処置をする医師、看護師、検査技師など多くの人の力が一つにつながる必要がありますが、とりわけ、バイスタンダーにより、救急隊が到着するまでに行われる応急手当がいかに重要かを示しています。

(3) 救急車の適正利用の促進

救急車の到着が遅れると、救える命が救えなくなる可能性があります。東京消防庁では「本当に救急車を必要としている声に応える」ため、救急車は緊急性がある時に利用するよう適正利用を呼びかけています。

ア 東京民間救急コールセンター利用促進の広報推進

東京消防庁では、「緊急ではないけれど交通手段がない！」このようなときは東京民間救急コールセンターを利用するよう、働きかけています。東京民間救急コールセンターでは患者さんの都合に合わせて、寝台（ストレッチャー）や車椅子のまま搬送する民間救急車と、ご自分で歩行可能な方を搬送するサポートCab（救命講習を修了した運転手が乗務するタクシー）を案内しています。（搬送費用は有料です。）また、効果的な運用を図るため、地区医師会、救急医療機関等の関係機関及び都民に対して緊急性がない転院搬送、通院及び入退院には、民間救急、タクシー等を利用するよう理解と協力を求めています。

イ 救急搬送トリアージの実施

救急現場において、明らかに緊急性がないと判断された場合は、傷病者自身による医療機関の受診を促す救急搬送トリアージを実施しています。

3 応急手当普及啓発用ポスターについて

(1) 絵柄

別添えのとおり

(2) キャッチコピー

「日頃から 覚えて安心 応急手当」（平成24年度東京消防庁救急標語）
（作成者 金子 祐子さん 西東京市）

(3) 目的

「救急の日」及び「救急医療週間」にあたり、応急手当を覚え、互いに助け合う

社会をつくることの尊さを訴えることにより、都民の応急手当に関わる意識の高揚を図ることを目的としています。

問合せ先

東京消防庁(代)	電話	3 2 1 2 - 2 1 1 1
救急医務課救急相談係	内線	4 5 4 5 ~ 4 5 4 6
救急指導課救急普及係	内線	4 6 2 5 ~ 4 6 2 6
広報課報道係	内線	2 3 4 5 ~ 2 3 5 0



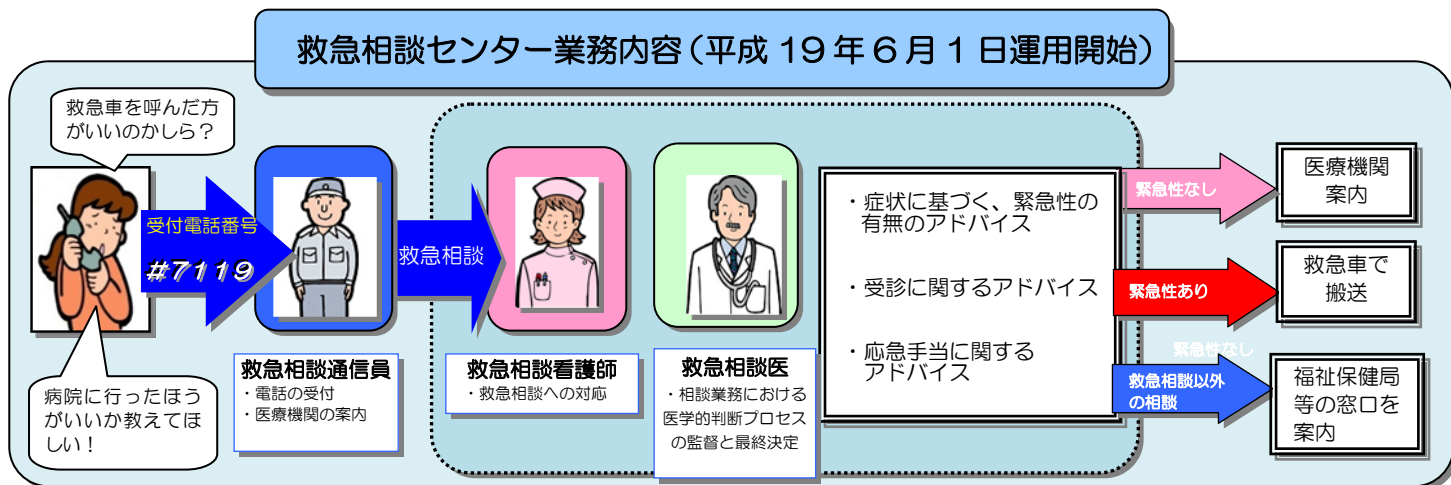
《病院？救急車？迷ったら》

■ 東京消防庁救急相談センター

急な病気やケガをした場合に、「今すぐ病院に行ったほうがいいのかな?」、「救急車を呼んだほうがいいのかな?」など迷った際の相談窓口として、東京消防庁救急相談センターを開設しています。

東京消防庁救急相談センターでは、これらの相談に、相談医療チーム（医師、看護師、救急隊経験者等の職員）が、24時間・年中無休で対応しています。

受付番号#7119は携帯電話、PHS、プッシュ回線からご利用いただけます。その他の電話、またはつながらない場合は、23区は03（3212）2323、多摩地区は042（521）2323からご利用いただけます。



■ その他の医療機関案内について

医療機関案内については、前記の救急相談センターのほかに、下記の機関でも同様のサービスを行っています。

- ★ 最寄りの消防署や消防分署、消防出張所
- ★ 東京消防庁ホームページ (<http://www.tfd.metro.tokyo.jp>)
- ★ 東京消防庁モバイルホームページ (<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/mob>)
- ★ 東京都医療機関案内サービス（通称：ひまわり 電話番号：03-5272-0303）

他にも、区市町村によっては、独自に夜間・休日診療体制を実施している区域もあります。自治体の広報紙又はホームページ等でお知らせしていますので、あらかじめ休日診療病院等の所在地・道順・電話番号などを確認しておきましょう。

■ 東京版 救急受診ガイド (ウェブ版) について

東京消防庁救急相談センターでの電話による救急相談に加え、平成24年4月1日より、東京消防庁ホームページ上で**東京版救急受診ガイド(ウェブ版)**の提供を開始しました。

これは、主な19の症状について、利用者が自ら症状をチェックしていくことで、傷病の緊急度などに関するアドバイスが得られるサービスになります。

いつでもご利用できるように右のQRコードを携帯電話またはスマートフォンで読み取り、アドレスを登録しましょう。

病院へ行く？ 救急車を呼ぶ？ 急な病気やけがで迷ったら

東京版 救急受診ガイド

病気やけがの緊急度や受診する科目をパソコンや携帯電話などで確認できる「東京版 救急受診ガイド」のサービスを東京消防庁ホームページで提供中

携帯電話からはこちら

スマートフォンからはこちら

※冊子版「東京版救急受診ガイド」でも確認できます。詳しくは最寄りの消防署まで

電話での相談は
東京消防庁 救急相談センター #7119

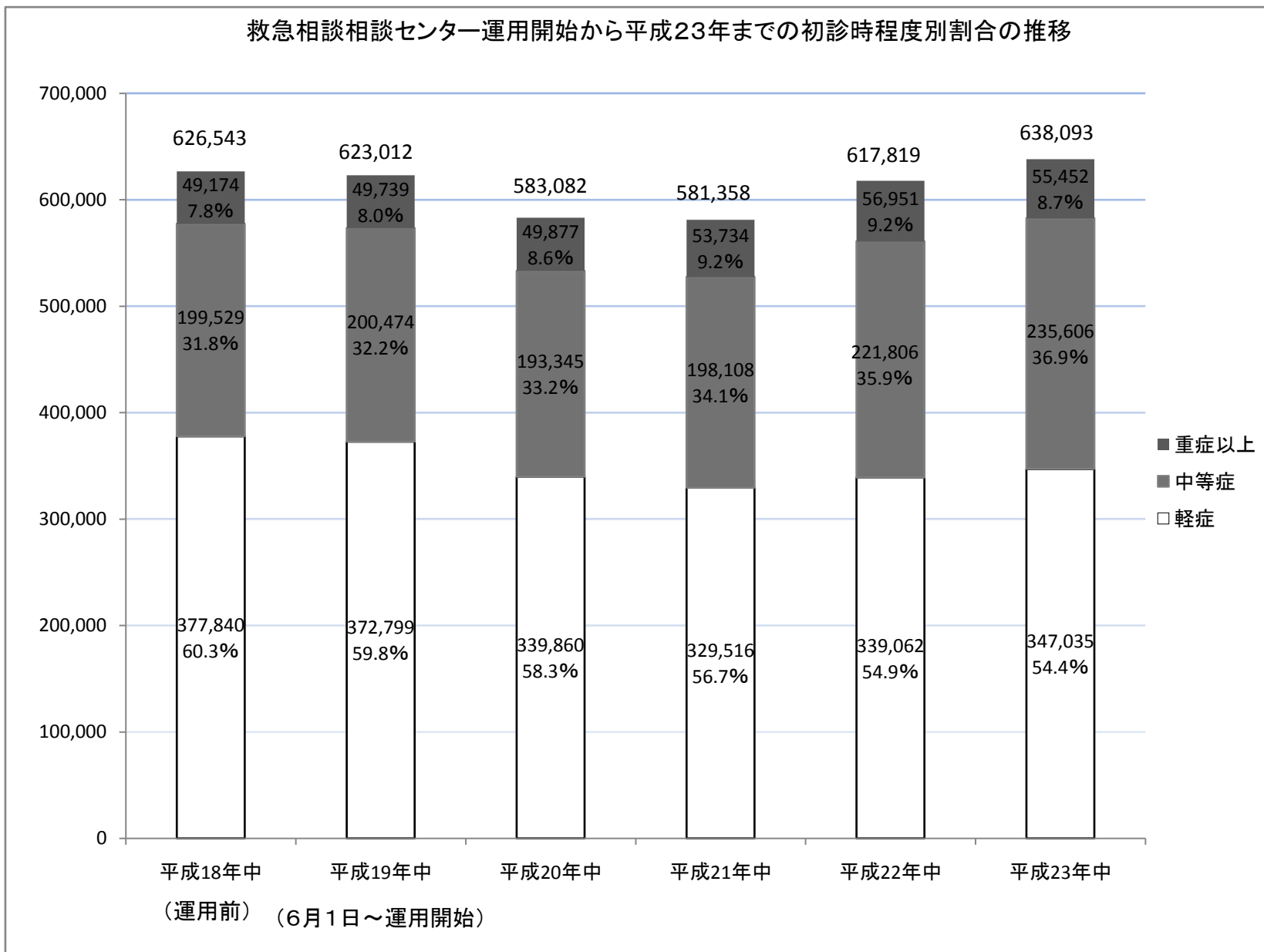
東京消防庁救急相談センター運用開始からの受付状況等

期間	着信件数	総受付	医療機関案内	救急相談	救急要請		相談前 救急要請	*かけ直し依頼	**とりきれない電話	救急搬送人員 に占める 軽症割合
						中等症以上				
平成18年中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60.3%
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
平成19年中 (平成19年6月1日～平成 19年12月31日)	212,576	155,885	139,685	14,422	1,849	545	287	1,485	56,691	59.8%
	993.3/日	728.4/日	652.7/日	67.4/日	8.6/日	2.5/日	1.3/日	6.9/日	264.9/日	
平成20年中	377,174	279,084	238,531	34,208	4,443	1,358	1,085	5,234	98,090	58.3%
	1030.5/日	762.5/日	651.7/日	93.5/日	12.1/日	3.7/日	3.0/日	14.3/日	268.0/日	
平成21年中	435,735	313,908	251,599	52,940	6,251	2,179	1,262	8,093	121,827	56.7%
	1193.8/日	860.0/日	689.3/日	145.0/日	17.1/日	6.0/日	3.5/日	22.2/日	333.8/日	
平成22年中	448,757	292,882	219,459	66,749	8,145	3,048	2,133	4,527	155,875	54.9%
	1229.5/日	802.4/日	601.3/日	182.9/日	22.3/日	8.4/日	5.8/日	12.4/日	427.1/日	
平成23年中	480,755	312,390	230,231	79,338	11,103	4,162	2,086	731	168,365	54.4%
	1317.1/日	855.9/日	630.8/日	217.4/日	30.4/日	11.4/日	5.7/日	2.0/日	461.3/日	
5年間累計 (速報値)	1,954,996	1,354,149	1,079,505	247,657	31,791	11,292	6,853	20,070	600,847	
	1167.2/日	808.4/日	644.5/日	147.9/日	19.0/日	6.7/日	4.1/日	12.0/日	358.7/日	

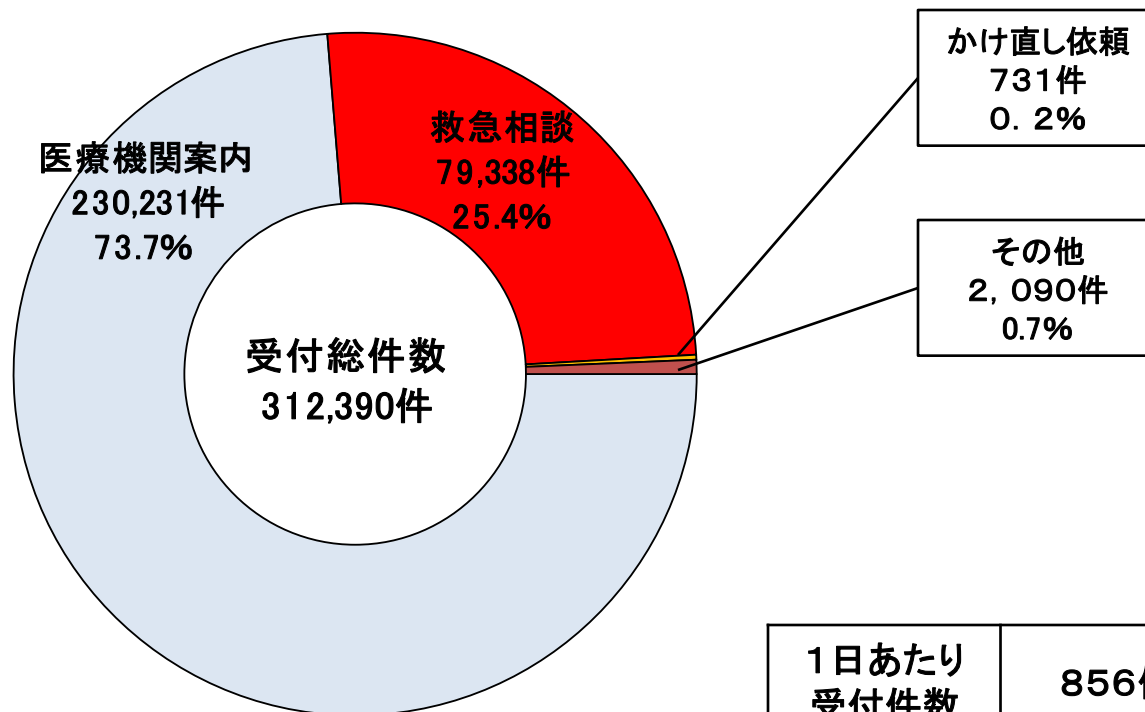
*かけ直し依頼:電話がつながり、救急相談を希望したが、看護師が全て相談中で対応できないことから、電話をかけ直すよう依頼したもの。

**とりきれない電話:機械的にカウントされた「着信件数」から「受付件数」を減した件数(平成21年8月からは直前3か月間(平成21年5月から7月まで)の比率から推計)

救急相談相談センター運用開始から平成23年までの初診時程度別割合の推移



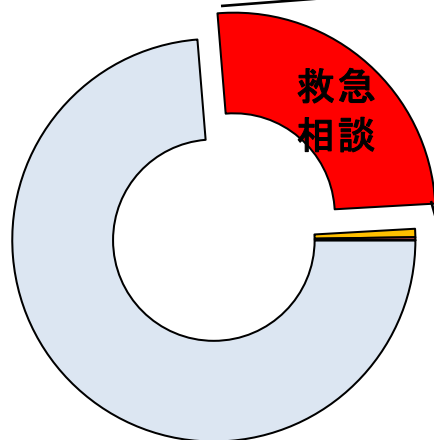
東京消防庁救急相談センターの受付状況（平成23年中）



1日あたり 受付件数	856件
1日あたり 病院案内	631件
1日あたり 救急相談	217件

注 「かけ直し依頼」とは、看護師が対応中のため、利用者に対してかけ直すように依頼した事案をいう。

救急相談内容の内訳（平成23年中）



内 訳	件 数	割合(%)
救急要請	11,103件	14.0%
医療機関案内	42,874件	54.0%
かかりつけ等受診推奨	16,413件	20.7%
応急手当を指導	22,565件	28.4%
他機関窓口を案内	751件	0.9%
看護師への医師助言	28,963件	36.5%
医師直接対応	100件	0.1%
合 計	122,769件	

注 複数カウント

主な救急相談の内容（平成23年中）

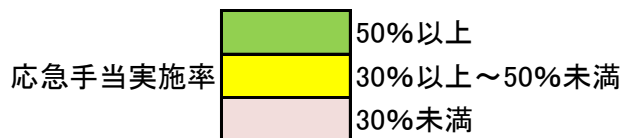
No	内 訳	件 数	割合 (%)	No	内 訳	件 数	割合 (%)
1	発熱 (小児)	11,849件	11.2%	6	しびれ	3,425件	3.2%
2	頭部外傷 (小児)	4,873件	4.6%	7	めまい	3,379件	3.2%
3	嘔吐・吐き気 (小児)	4,340件	4.1%	8	固形異物誤飲	3,227件	3.0%
4	腹痛	4,308件	4.1%	9	発疹(小児)	2,757件	2.6%
5	頭痛	3,520件	3.3%	10	腰痛	2,614件	2.5%

救急医療週間前後の主な「東京版救急受診ガイド」及び「東京消防庁救急相談センター」広報行事予定

実施日	実施時間	行事名	会場名	実施場所	主な内容	参加予想人員	担当消防署	管理職 出向者	
9月9日	日	10時30分から 19時00分まで	「救急の日2012」	有楽町駅前広場	千代田区 有楽町 2-1-1	主催者と共同し ・救急相談センターの広報 ・救急車適正利用広報等	18,000	丸の内	救急部長 救急医務課長
9月12日	水	17時00分から 19時30分まで	平成24年度東京都 「救急の日」	東京都庁舎第一庁舎 5階大会議室ロビー・ レセプションホール	新宿 西新宿 2-8-1	・東京版救急受診ガイドの体験 ・東京版救急受診ガイド、救急相談 センターの広報物の配布	1,000	新宿	救急医務課長

発生場所別心停止目撃・応急手当実施状況

発生場所		平成22年中				平成23年中				概要
		搬送人員	心停止目撃※	応急手当(胸骨圧迫・人工呼吸・除細動)		搬送人員	心停止目撃※	応急手当(胸骨圧迫・人工呼吸・除細動)		
		a	b	c	実施率(c/b)	a	b	c	実施率(c/b)	
居住介護宿泊施設	住宅(専用・共同・寮・寄宿舍)	9391	2977	775	26.0%	9251	3243	826	25.5%	
	自助施設・グループホーム等	140	62	41	66.1%	179	96	50	52.1%	発生率
	特別養護老人ホーム	617	275	203	73.8%	598	290	209	72.1%	発生率
	老人施設(特養以外)	469	210	151	71.9%	509	209	147	70.3%	発生率
	ホテル・旅館・簡易宿泊所	72	29	13	44.8%	68	30	11	36.7%	不特定
会社工場等	会社・オフィス	117	65	35	53.8%	114	59	32	54.2%	
	工場・製造所・作業場	84	43	19	44.2%	64	27	13	48.1%	
	その他仕事場業態の場所	16	4	1	25.0%	12	6	3	50.0%	
販売・サービス業施設		238	146	72	49.3%	245	160	73	45.6%	不特定
娯楽・遊戯施設		73	46	25	54.3%	62	36	17	47.2%	不特定
健康・保養・美容施設		63	23	11	47.8%	69	34	16	47.1%	
医療等施設	病院	65	22	20	90.9%	67	43	37	86.0%	
	診療所・クリニック・医院	75	53	44	83.0%	95	79	64	81.0%	
	助産所・鍼灸院・接骨院等	5	4	0	0.0%	2	0	0	0.0%	
育児児童施設・学校		38	22	17	77.3%	27	15	12	80.0%	公共性
芸術・文化施設		17	10	6	60.0%	15	12	6	50.0%	大規模
運動施設		57	45	41	91.1%	46	31	27	87.1%	発生率
公園・遊園地等		106	16	6	37.5%	125	32	18	56.3%	
宗教施設・斎場等		22	9	3	33.3%	30	12	4	33.3%	
官公庁・行政施設		40	19	14	73.7%	47	21	13	61.9%	公共性
道路車両交通施設	線路・軌道敷	62	26	3	11.5%	57	19	2	10.5%	
	駅	167	103	68	66.0%	168	109	66	60.6%	公共性
	空港	8	6	4	66.7%	5	2	1	50.0%	公共性
	港	0	0	0	0.0%	2	2	1	50.0%	公共性
	駐車場・駐輪場	54	14	2	14.3%	60	17	6	35.3%	
	一般道路	776	369	130	35.2%	797	411	147	35.8%	
高速道路・自動車専用道路		13	6	4	66.7%	14	7	2	28.6%	
自然環境土地	農地(田・畑)	2	0	0	0.0%	3	2	1	50.0%	
	山林	7	2	1	50.0%	11	6	5	83.3%	
	河川・水路	58	7	3	42.9%	60	10	5	50.0%	
	湖沼等	0	0	0	0.0%	2	0	0	0.0%	
	海	6	3	2	66.7%	4	1	0	0.0%	
	その他自然環境・土地	11	2	0	0.0%	12	0	0	0.0%	
建築・工事現場		31	20	11	55.0%	26	20	4	20.0%	
その他		16	9	7	77.8%	5	0	0	0.0%	
総計		12,916	4,647	1,732	37.3%	12,851	5,041	1,818	36.1%	



※ 心停止目撃は、市民目撃のことをいいます。

概要欄 公衆の出入りする場所の区分を記載した。
 公共性・・・公共性のある施設
 傷病者・・・傷病者の発生率が高いと予測される施設
 不特定・・・不特定多数を収容する施設
 大規模・・・大規模集客施設

バイスタンダーによる目撃のある傷病者に対する 応急手当実施状況等(平成23年中)

図1 バイスタンダーによる
応急手当実施状況

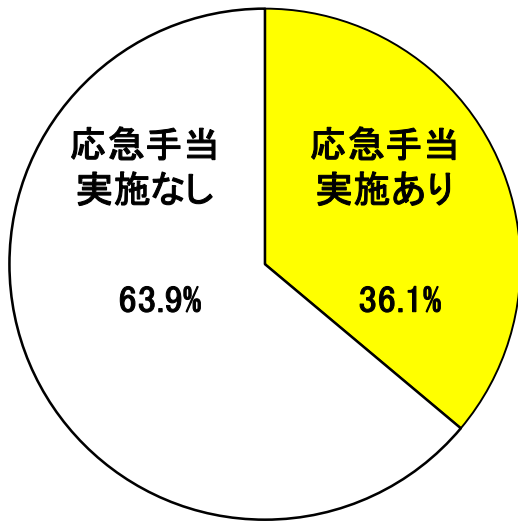
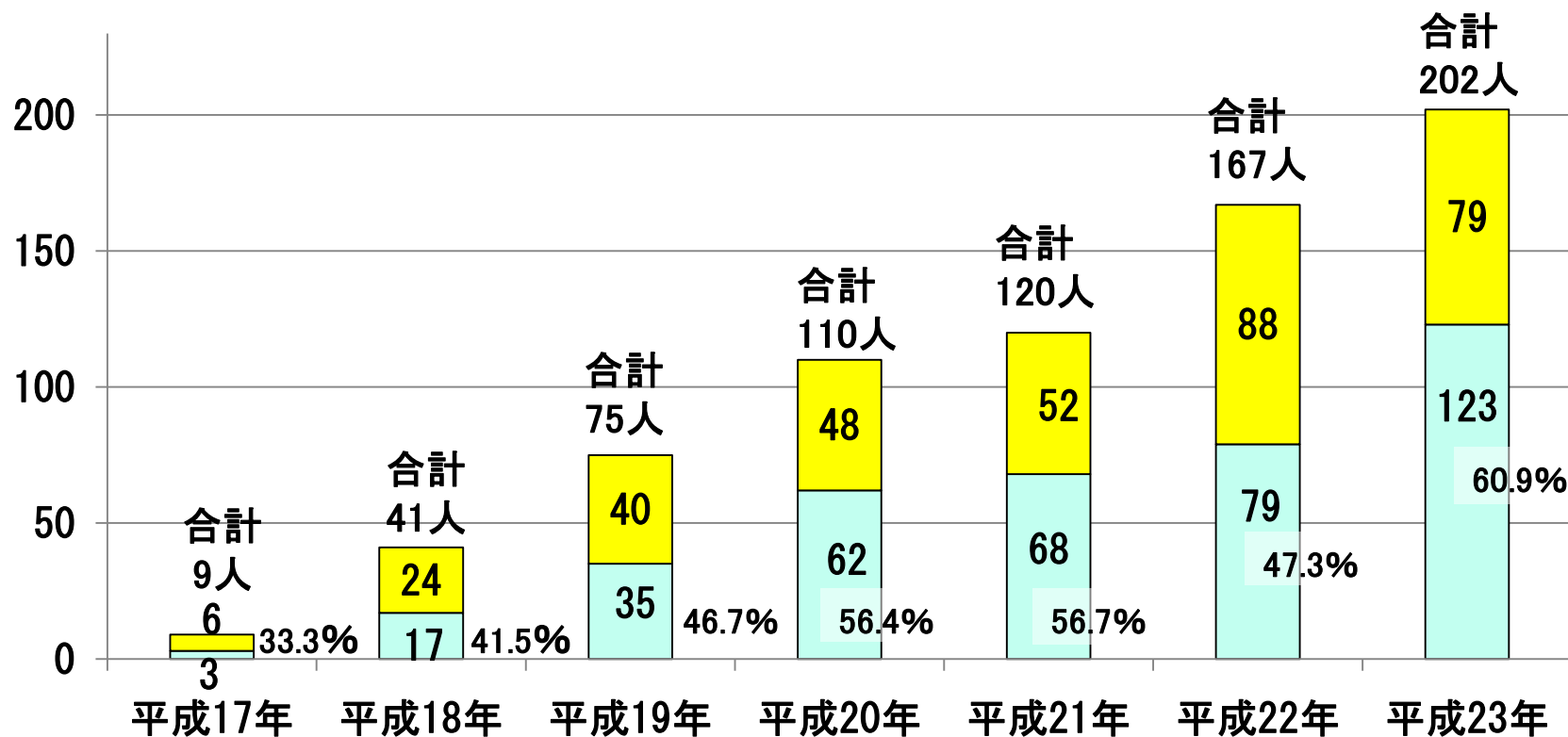


表1 収容前心拍再開・1ヶ月生存状況

	搬送人員	収容前心拍再開者数	収容前心拍再開率	1ヶ月生存者数	1ヶ月生存率
応急手当あり	1,818	421	23.2%	178	9.8%
応急手当なし	3,223	360	11.2%	115	3.6%
合計	5,041	781	15.5%	293	5.8%

12ポイント 2.7倍

都民等によるAEDの救命効果 (医療機関での発生を除く)



病院に搬送されるまでに自己心拍が回復した傷病者数 (回復率)

病院に搬送されるまでに回復しなかった傷病者数

救命の連鎖(チェーン・オブ・サバイバル)の重要性

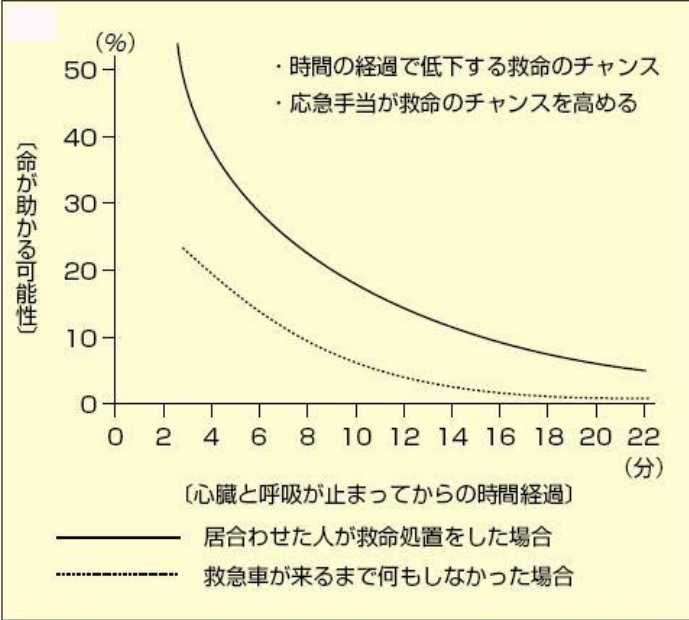
「救命の連鎖」 (Chain of Survival)



大切な命を救うために必要な行動を、迅速に途切れることなく行う重要性を表しています。

-  **心停止の予防**
-  **早い発見と通報**
-  **早い心肺蘇生と除細動**
-  **二次救命処置**

救命曲線



Holmberg M et al. Effect of bystander cardiopulmonary resuscitation in out-of-hospital cardiac arrest patients in Sweden. Resuscitation 47:59-70, 2000. より、一部改変して引用

みんなでおぼえる応急手当

大切な命を守るため、
救命講習で応急手当の
知識を身につけましょう。

倒れている人を見たら

1 声をかける

肩をたたきながら声をかける。反応がなかったら、大声で助けを求め、119番通報とAEDを依頼する。

大きな声で呼ぶンダ!

大丈夫ですか！
誰か来ててください！
119番してください！



2 呼吸の確認

胸とおなかの動きを見る。動きがなければ心肺蘇生を行う。

10秒以内で確認するンダ!

よく見るンダ!



3 胸骨圧迫

AED到着まで胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返します。胸骨圧迫は、胸の真ん中を「より早く、強く」押す感して。

胸の真ん中を押すンダ!

よいしょ!よいしょ!
強く押すンダ!



4 AEDの活用

AEDの電源を入れ、電極パッドを体に貼り、AEDの音声に従います。電気ショックの必要性など全てAEDが判断します。

離れるンダ!

傷病者から電気ショックが必要ですよ...



ボクたち「応急パンダ」。今日は、応急手当を学ぶンダ! しっかり覚えるンダ!

ボクは、応急手当の指導員なンダ。

「応急パンダ」のまわりのちよつぷQQ(オーキュー)なのがとくちよつ、とくは、おうちやあてで、もちろんAEDもつきます。
応急PANDA → People (人) and Ambulance (救急) 「国民と救急を繋ぐ」キャラクターです。

「あなたの勇気が、命を救う。」救命講習で応急手当を学ぼう!

東京消防庁では、都民の皆さんや事業所等を対象として応急手当の講習会を行っています。講習修了者には、認定証が交付されます。東京消防庁では、3年ごとの再講習を勧めています。一人でも多くの命を救うため、救命技能認定証の交付年月日を確認して、再講習を受けましょう。



日頃から覚えて安心 応急手当

平成24年度東京消防庁救急標語 作成者「釜子 裕子さん(西東京市)」

東京消防庁

東京消防 検索 <http://www.tfd.metro.tokyo.jp>

京版 救急受診ガイド

病院に行くべきか、救急車を呼ぶべきか迷った時に、東京消防庁救急相談センター(☎7119)に加え、新たにインターネットを通じてパソコンやスマートフォン、携帯電話等で病状やけがの緊急性や受診の必要性を都民自身が確認できる「京版 救急受診ガイド」を東京消防庁ホームページ上で提供しています。

病院へ行く? 救急車を呼ぶ? 急な病状やけがで迷ったら

東京版 救急受診ガイド

東京消防庁ホームページで提供中

携帯電話用 スマートフォン用

☎電話での相談は 東京消防庁救急相談センター ☎7119

電話でのご相談は

東京消防庁 救急相談センター

#7119

24時間受付 緊急時専用

ファミシム 救急電話 PHSから

つながらない! 緊急時 ☎03-3212-2323

報告は ☎042-521-2323

H24 石油系潤滑油を含まないインキを使用しています。